



平成27年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

平成28年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要		交付決定年月日	事業予算(単位:円)			
		事業の背景	事業の目的		事業の内容	全体額	申請額	交付金額
1 福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	地域内にある中、高、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動について、一定の役割をもって継続的に参加できる仕組みを構築し、地域のボランティア団体、個人ボランティアと協働し、障がい者や高齢者への手助けの活動を体験して、若者世代が地域で果たすことのできる役割を理解する必要がある。	地区は65歳以上の高齢者の割合が30.4%(平成27年4月)と、市内でも1、2を争う高齢者率となっている。その中であつても、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりは極めて強く、「福祉コミュニティ形成モデル事業」は市内のトップを切つて実施された経緯もある。しかしながら、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、益々進行していき高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進しようというのがこの事業の目的である。	多数の地域イベントに若者世代が参加しやすいように、活動場所を設定し、参加することで自然に地域社会が抱える課題に気づき、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。加えて、まちの将来を担う中学生を構成委員として、地域の将来を考える場として「こども会議」を設置し、独自に企画する活動事業を検討する。福祉の里づくり委員会としては、地区内の様々な団体からの要望等と取りまとめ、学校との調整を行うとともに、ボランティア参加者へは「ボランティア手帳」を配布し、若者世代のボランティア養成を行う。 ボランティア参加者(中学卒業時)へは、記念品と感謝状を配布する。	9月24日	530,000	530,000	530,000
2 光が丘フェスタ実行委員会	光が丘ふれあいいきフェスタ	3年間事業実施した「光が丘わが町フェスタ」、一昨年度から実施した「ふれあいいきフェスタ」を通じて、地域内における団体間の交流が盛んになり、新たな組織間連携も生まれつつある状況にあるが、核家族化や少子化に伴い、従来、家族内や地域で行われていた高齢者と子どもとの交流は減少し、それぞれの世代で抱える問題が多様化している。そんな中、高齢化が進む光が丘地区では、「様々な世代に元気を与えること」とそれぞれの世代が共に活動し、お互いを理解していく交流「世代間交流」が求められている。	それぞれの世代において活動するサークル等の発表や練習の場を提供することで、「活動している喜び」を感じてもらい、他世代の活動を見ることや遊びをとおした世代間の交流を図ることで、お互いを理解しあえる環境づくりをする。「世代間交流」によって、子どもたちは多くの人間関係から様々なことを学び、高齢者はその能力、経験を社会的に活用する場を見つけることで、お互いの生活の質を高めることができると考える。本事業の展開は、すべての世代の人々が、お互い住んでいる人々の気持ちに寄り添いながら生活できる環境づくりをし、住みよいまちづくりを実現することを目的とする。	・公民館活動団体等のステージ発表(キッズダンス、社交ダンス、コーラスグループ等) ・遊びを通じた世代間交流コーナー(竹とんぼ・ビー玉・お手玉等の昔ながらの遊びを通しての交流) ・パークゴルフ、ペタンク等のスポーツを通しての交流コーナー ・ものづくり体験コーナー ・地域団体による展示、模擬店、パザーなど ・協賛団体、企業の展示、催事など(ミニSL、ふわふわ)	9月16日	1,860,000	1,800,000	1,800,000
3 光が丘地区人材ネットワーク委員会	知識や経験を持った人の地域活動への参加促進事業	光が丘地区まちづくり会議の第1専門部会を母体とする当委員会はこれからのまちづくりに活躍願える人材の発掘と実践活動を進めることをテーマとして検討を進めてきており、昨年度までは光が丘地区人材ネット設立準備委員会として活動を行ってきた。既に地域活性化事業において人材募集と人材活用実績の積み重ねを行ってきたところであるが、平成27年度ではさらにこの仕組みと登録人材の地域への周知を行うための事業を行うものである。	既に登録された人材リストをとりまとめ、地域の団体や関係機関への周知を行い、地域社会への浸透をはかり、併せて人材活用の仕組みを確立することが今年度事業の目的である。	既に登録された人材(約90名)の登録内容を分野毎に分類した人材ハンドブックを300部制作し、主として地域の各団体に配布して、人材の紹介と活用の活発化につなげる。実際の運用においては、光が丘ふれあいセンターの「光が丘サポートセンター」を受付窓口として行う仕組みを確立する。	8月24日	150,000	150,000	150,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 光が丘地区自治会 連合会	光が丘地区自治会加入 促進事業	光が丘地区の自治会加入率は、69.71%(平成27年4月1日現在)であり、年々加入率の低下が進んでいる状況にある。加入率の低下は、新規の加入が進まないことも原因であるが、高齢化が進むに伴って、脱会者の増加も大きな要因となっている。	地域のイベントへ案内チラシと「自治会区域」・「地域活動」・「防災」をテーマとした3種類のリーフレットを作成し、自治会未加入者全世帯へ配布する。未加入者へ自治会の役割を改めて認識してもらうとともに、「ふるさとまつり」や「ふれあい・いきいきフェスタ」において、自治会未加入者向けの抽選コーナーを設けることで、多くの自治会未加入者を呼び込み、自治会加入促進を進める。	自治会未加入世帯へ配布する、地域イベント案内チラシの作成(2種類×3000部) 自治会の役割等を解説したリーフレットの作成(3種類×3500部)	9月18日	110,000	80,000	80,000
5 光が丘ふれあいセンター	地域ふれあいネットワー ク構築事業	(1)当地域では様々な地域活動が展開されているが、その参加者の多くに固定化がみられる。また年代別では50代以下の参加者が非常に少ない。地域活動を通して共助の精神が根付くことが期待される中において、メンバーの偏りや世代の隔たりがあるのは望ましくない。 (2)昨年度あたりから、当センター周辺に新築の戸建てが多く建設され、若い世帯が続々と入居している。彼らの住まいに最も近い公共施設として、転居家族と地域住民とが広くふれあえる交流の機会が望まれる。 (3)当センターとして、高齢者の介護予防や健康維持のために親しみやすい事業を行い、気軽に立ち寄れる居場所作りを目指したい。	(1)仕事や子育てに忙しい世代を含めた、より多様な人々の交流。 (2)転居者と住民との信頼関係の構築。転居者を温かく迎え入れることで、共助の精神を共有し、地域コミュニティの一端を担っていただくこと。 (3)高齢者のための気軽な居場所作りと健康維持に対する知識獲得	・「夏休みお楽しみ工作教室」は、光が丘地区の親子を対象とする交流事業。4つの小学校に通う児童がもの造りをともに楽しみ、その保護者もまた交流するもの。 ・「ふれあいクリスマス会」は、光が丘地区の比較的最近の転入者を主対象とする交流事業。 ・「元気にうたいませんか」と「お医者さんに聞いてみよう」は、高齢者のための気軽な居場所作りと健康維持のための事業である。 ・「お医者さんに聞いてみよう」は普段はなかなか聞けない医師による高齢者のためのお話である。	8月3日	190,000	165,000	165,000
6 高齢者安全・安心まち づくり推進委員会	高齢者安全・安心まち づくり推進事業	中央区では高齢者にかかる事故が多くなっている中、光が丘地区も例外ではなく、今後ますます進む高齢化の中で定期的な交通安全教育を図ろうと考えた。また、地域の活動になかなか参加できない高齢者、独居等の方に朝のラジオ体操程度なら参加していただけるのではないかと考え、参加を促進して高齢者が、人と話をすることでコミュニケーションを取っていただき、何よりも毎日の安否確認になるので、自治会連合会、老人連合会と協力して推進していきたいと考える。	・高齢者の自転車事故の撲滅 ・高齢者コミュニティ(ラジオ体操の促進・安否確認)の活性化	10月下旬に交通安全講習会案内の回覧と老人会を介しての案内チラシの配布 10月下旬光が丘地区内ラジオ体操実施会場マップ配布 11月24日(火)光が丘公民館 交通安全講習会(自転車シミュレーター)10:00~12:00 実施 11月27日(金)陽光台公民館 交通安全講習会(自転車シミュレーター)10:00~12:00 実施 上記講習会終了後、関連グッズを粗品進呈120名分(自転車ネット等)	10月8日	30,000	30,000	30,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
7 相模原市パークゴルフ協会	パークゴルフ普及活動推進事業	高齢化率の高い光が丘地区では、今後医療費の増加が懸念されている。また、核家族化の進展等により人間関係の希薄化が進みコミュニケーション不足も課題となっている。さらに、災害時等に備え、平常時から地域住民の交流を促進し、地域住民の連携強化が求められている。	パークゴルフは、ルールが簡単で身体にも負担をかけない運動であるため、世代を問わず楽しめるスポーツである。このパークゴルフを地域に普及させることで、高齢者の健康増進と医療費の低減を図ることと、地域内で仲間づくりを促進して、地域の活性化を図る。	パークゴルフの広報活動の推進 1) 体験教室の開催 2) 各種媒体によるPR活動 3) 地域の公共的な活動団体(自治会、公民館、学校等)との連携活動 初心者の方を中心にプレーのマナー、ルールの教育(勉強会の開催)	10月8日	338,000	169,000	169,000
						3,208,000	2,924,000	2,924,000